



青野 光 議員

定住促進対策事業

問

- ①人口増加促進策として市有地取得者への補助金制度や格安提供などの有効活用はできないか。
- ②大角蔵と中山町門前以外に住宅地として価値のある土地はどこか。

答

総務部長

①旧土地開発公社所有の分譲宅地は、土地価格の下落低迷や経済情勢の悪化等の影響もあり、中山町門前地区の土地や米湊の大角蔵の土地は売却されていません。

平成24年4月に伊予市名義とした。現在土地の鑑定評価を依頼してお



売却が進まない大角蔵の土地 (米湊)

り、結果が出次第、財産処理委員会において価格の引き下げも含め協議を行い、公募により売り出しをかける予定である。

定住促進対策は、合併前には旧中山町・旧双海町で奨励金等を支給する仕組みがあった。しかし、新市全体に適用することは、財政面や費用対効果の点から疑問があり、廃止した経緯があるので現状では困難である。

②旧おひら保育所跡地・旧ふたば保育所跡地・旧火葬場跡地があり、これらの土地は平成24年8月から売却広告を

行っているが、正式な申し込みはない状況である。今後、財産処理委員会に諮り価格の見直し等の協議をし、再度公募による売り出しをかけていきたい。

防災・減災の取り組み

問

- ①高速道路を横断する農道橋の補修状況は。
- ②橋や道路の調査をし、補修等を要する箇所はあるのか。
- ③ランクづけの決定方法と周知方法は。

答

産業建設部長

①該当する橋梁は6カ所あり、すべて補修を西日本高速道路株式会社に委託しており、本年度末に完成予定である。内容は橋梁上部等の補修とコンクリート剥落防止ネットの設置工事である。

②市道・農道については、早急に補修や改良を予定

する箇所はなく、毎年地元要望を受け検討し、地元の同意が得られれば、随時対応している。

市道に295の橋梁があり、点検の結果、緊急に架け替えを必要とする橋梁はないが、37の橋梁については、今後10年間で緊急度の高い橋から補修等の措置を行いたい。

問

③市道・橋梁のランクづけは調査結果に基づく部材健全度による判定で5段階に分類し、重度別のランクをつけている。

市民に対する周知方法としては、点検結果を本年度末までにホームページで掲載するとともに、閲覧できる形にしたい。

答

市長の8年間を振り返って

①箱物行政と言われているがどうお考えか。

②本年度中に入札を終えた事業の総工費は。

問

③合併特例債と過疎債は。

④返済金額と期間は。

答

中村市長

①施設整備に批判的な一部の方の意見だが、箱物行政とは思っていない。現在整備を進めている施設は、総合計画に定めるいずれも必要な施設であり、将来の本市の発展にとって欠かせないものである。

②合計で7事業あり、約107億3200万円である。

③合併特例債は約62億6000万円、過疎債は約92億4500万円である。

④交付税算入後の実際の返済額は約33億6500万円、20年間で約1億6800万円を毎年返済することになる。

その他の質問事項

- ・国際交流事業
- ・廃油回収事業